2023年6月14日
NS2-他-303改03

島根原子力発電所第2号機　指摘事項に対する回答整理表（1号機原子炉建物の耐震性についての計算書）

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への反映箇所	備考
		ヒアリング資料番号	図書種別，目録番号	図書名称	該当頁					
詳細設計申送り事項No.6	その他	－	設置許可まとめ資料4条	別紙－2　建物の地震応答解析モデルについて（建物基礎底面の付着力及び3次元FEMモデルの採用）	4条-別紙2-6	制御室建物及び廃棄物処理建物以外の建物において付着力を考慮する場合に採用する基礎浮上り評価法について説明する。	2023/2/3	1号機原子炉建物について，ジョイント要素（付着力考慮）を用いた3次元FEMモデルによる最小接地率は98.8%（Ss－N1，NS方向），52.4%（Ss－N1，EW方向）であり，ジョイント要素（付着力考慮）を用いた3次元FEMモデルが適用可能な接地率35%以上（目安値）を大きく上回ることから，ジョイント要素を用いた3次元FEMモデルの適用性を確認しました。	NS2-補-025-13「1号機原子炉建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料」別紙4-2（通し頁P.121～360）	分類【D】

島根原子力発電所第2号機　指摘事項に対する回答整理表（1号機原子炉建物の耐震性についての計算書）

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別， 目録番号	図書名称	該当頁					
1	2023/2/3	NS2-補-025-13、NS2-補-025-14	補足説明資料	1号機原子炉建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料，1号機タービン建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	P.68 P.43	1号機原子炉建物の鉄骨架構及び1号機タービン建物のオペフロ壁について，面外方向に加速度を受けた場合にも波及的影響を及ぼさないことを説明すること。	2023/3/24	1号機原子炉建物のオペフロ上部の外壁について，面外方向の加速度応答に対してオペフロレベル（EL 44.0m）より上部の柱，はり，鉛直ブレース，屋根トラス，屋根スラブ等を線材及び面材により立体的にモデル化した3次元FEMモデルによる地震応答解析を実施し，上位クラス施設に波及的影響を及ぼさないことを確認しました。	NS2-補-025-13改01「1号機原子炉建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料」別紙6（通し頁P.18～28）	

島根原子力発電所第2号機　工認記載適正化箇所（1号機原子炉建物の耐震性についての計算書）

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
No.1～6は，NS2-他-303改02で整理済みのため省略。						
7	NS2-補-025-13改02	1号機原子炉建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	P.別紙2-18,19	表4－8及び表4－9のシアスパン比について，上限を1.000に修正しました。 また，表4－8のうちS.W軸のEL 44.0～36.1mについて，シアスパン比を1行にまとめました。	2023/6/14	
8	NS2-補-025-13改02	1号機原子炉建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	P.別紙4-8	地盤のS波速度Vsの不確かさは，Ⅵ-2-1-3「地盤の支持性能に係る基本方針」に基づいて設定していることを追記しました。	2023/6/14	
9	NS2-補-025-13改02	1号機原子炉建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	P.別紙5-4～8	地震応答解析モデルの選定フローにおける①浮上り非線形SRモデル，②誘発上下動考慮SRモデル及び③浮上り線形SRモデルについて，地震応答解析モデルを追記しました。	2023/6/14	
10	NS2-補-025-13改02	1号機原子炉建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	P.別紙6-2	制御室建物が波及的影響を及ぼす対象とならない理由を追記しました。 また，図2－1(1)に$_{R}$Aの通り芯線を追記しました。	2023/6/14	
11	NS2-補-025-13改02	1号機原子炉建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	P.別紙6-4	解析モデルに適用する弾塑性特性について，Ⅵ-2-9-3-1「原子炉建物原子炉棟（二次格納施設）の耐震性についての計算書」のうち，屋根トラスの評価に用いている3次元FEMモデルと同様であることを追記しました。	2023/6/14	
12	NS2-補-025-13改02	1号機原子炉建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	P.別紙6-5	鉄骨脚部の境界条件について，構造的な特徴を踏まえ，ピン接合としていることを追記しました。	2023/6/14	